

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600720		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム三井楽		
所在地	長崎県五島市三井楽町濱3185		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年度に法人内のGHの理念を「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」に統一して取組をはじめました。本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。法人内では老健・グループホーム・有料老人ホームを運営し広域的な医療・看護・リハビリ・介護の提供に努めています。毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組みしており、研究発表会も開催され先進的な活動が行われています。また、老健や一部のグループホームでは認知症の維持・改善と予防に科学的に効果のある「くもん学習療法」を取り入れ、利用者のコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善により効果が現れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム三井楽からは青い空と青い海を眺めることができ、ホームの中にも潮風を感じる事ができる。五島の三井楽や近くの島で生まれ育った方が多く、診療所の待合室では馴染みの方との会話が盛り上がる事も多い。知人の方や神父様がホームに訪ねてきて下さり、地域行事等への参加も積極的に行われている。保育園児との交流もご利用者にとっての楽しみの一つとなっている。“いくつになっても、できる限り身だしなみは自分で…”という事から、ご利用者が楽しそうに外出の洋服を選ばれており、自分らしさ(尊厳)を大切にしたい生活が行われている。1つのユニットでは、意思疎通が難しくなっている方も増えてきているが、ジェスチャー等を使い、ご本人の思いを知るための取り組みが根気強く続けられている。食事や入浴の介助も増えているが、少しでも“楽しく”と言う思いを持って、日々、職員同士の意見交換が行われている。職員の離職も少なく、チームワークも更に良くなっており、22年度から毎年行われている研究発表会では、23年度に“三井楽”等を中心に始まった“公文式”の取り組みが発表された。潜在的なお力を引き出しながら、家庭的な環境の中で、笑いの多い、仲の良い生活が続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体でGHとしての統一した理念をつくり取り組んでいる。また、朝礼時に唱和し理念を念頭に置いたケアに努めている。	職員は理念を共有し、“家庭的な・・”と言う理念のもと、その方のペースを大切にされており、昔の話を沢山して頂いている。地域によって方言も異なり、方言の意味や語れを教えて頂くことで、生活歴の把握にもなっている。言葉での会話が難しい方もおられるが、ジェスチャーや筆談を行いながら、心に寄り添うケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭、敬老会、運動会など地域との交流と保育園児等との行事交流を行っている。	保育園児と触れ合う時のご利用者の目の輝きが違っており、交流を楽しまれている。釜老人会からも7人の方が来訪され、“かつら”を持参下さり、ご利用者と一緒に寸劇を行う等、楽しいひと時を過ごす事ができた。地域の空き缶拾いや海岸清掃、アイアンマン大会の応援や三井楽秋祭等の地域行事にも参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域住民や民生委員町内会長への認知症の理解からはじめ、地域の会議等の中で浸透を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での意見、要望、提案はできるかぎりサービスの向上に活かしている。	和やかな雰囲気での会議であり、ご利用者・ご家族・地区会長・老人会会長・民生委員・市の支所の方が集い、2か月に1回開催している。22年度は、地デジの話題が数回に渡り意見交換されるなど、気になる話題の検討も行われている。「行事も頑張ってますね」と言うお褒めの言葉も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行のホーム便りにて、取組状況等を提示し、法人本部含めて市町村または社協や各事業所と常に連携をとっている。	介護保険の申請等や議事録の提出含めて管理者等が訪問しており、窓口の担当の方とは顔見知りになっている。市の方が運動会にも参加下さり、衣装を着て競技に参加下さる等、良い関係が築かれている。母体の老健と三井楽が公文式を実施する事の発起人でもあり、老健での勉強会に市の方も参加して下さい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人全体として取り組んでおり、研修会では禁止の対象となる具体的な行為については例をあげて詳しく研修を行っている。	身体拘束廃止委員会もあるが、三井楽単独の委員会も設立予定である。身体拘束を絶対に行わないために研修会にも参加し、意識向上に努めている。ご家族にも、身体拘束をしないケアに努めていることを説明しており、日常の中で、自由に行動ができるような支援を行い、日々、尊厳をもって接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会を開催し、虐待行為が見過ごされることがないように注意を払い、その防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行い、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはできる限り本人・家族の意見を尊重しながら、専門用語等を控え、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議並びに家族の面会時においても意見・要望等を聞き入れ可能なものについては意見を反映している。	日々の面会時にも意見を伺うようにしているが、運営推進会や家族会の中で、「事業所から、家族への要望や意見も言って下さい」と言って下さっている。ホームからご家族への要望として、行事への参加や面会をお願いしているが、個別の内容、ケアの意見も聞きながら、運営やケアプランにも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任者会議や職員会議、カンファレンス等にも代表者が参加し、職員の意見を聞いている。置き去りにすることなく業務へ反映している。	長年勤務している職員も多く、行事のアイデアやケアへの意見も多い。運動会の時に動物の着ぐるみを準備する等、ユニークな発想も採り入れ、いかに場を楽しく過ごして頂けるかを一生懸命に考えられている。ご利用者にも意見を聞きながら、より良く過ごせる対策が検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の就業状況等の確認を行い、勤務状況等を考慮の上、評価し昇給・賞与に結びつけている。キュアリアパス制度も整備され充実した職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員との対話を重視し、職員の能力向上を期待しながら研修などの確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とはミニレクを合同開催するなど相互に交流を図っている。市グループホーム協議会において情報交換を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの申込みは、入居時において本人・家族から心身の状況や生活習慣等を把握し、本人らしく生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居させることの戸惑い、不安等を解消することに努め、家族からの要望・意見に耳を傾けながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い状況を把握し、より良いサービスが提供できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、基本は「尊重」という視点で暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけの支援ではなく家族と共に協働で支援するという視点にたって本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り馴染みの人への面会をお願いしたり、または、馴染みの場所へ出かけるように支援している。	馴染みの関係を大切にしており、美容院やご自宅、お墓参りに出かけたり、知人やカトリックの神父様が訪ねてきて下さる。病院受診時等には、知り合いの方が声をかけて下さり、楽しそうに会話を楽しまれている。船で30分の「嵯峨島(自宅)に行きたい」という方の希望を叶えるための検討も続けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれに個性を把握し、一人一人がお互いを尊重し支え合えるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を維持し、入院の場合は退院後のフォローも含めて対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方は様々でありそれぞれ違うので、一人ひとりの個性を尊重し、日常生活の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。	理念にもある“目配り気配り心配り”により対応をしている。ケアを行う中で、職員からご利用者に声かけを行い、“足が弱らないようにお散歩がしたい”“本が好き”等、ご本人の楽しみ事など把握し、ホームでの生活が、少しでも楽しく笑って過ごせるように努めている。	1つのユニットでは、意思疎通が難しくなっている方も増えており、職員はジェスチャーなどを使っている。思いの把握に努めている。思うように意思が通じない時もあるとの事で、絵や写真等の媒体を準備するなど、今後も検討を続けていく予定にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時または入居申込み時から本人・家族から生活歴や馴染みの暮らし方、地域の特性・風習などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれに生活のリズムややり方があるので強制せず本人のペース等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者と話し合いながらアイデアを出し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	毎週教会に通ったり、ドライブや買い物に出かける等も計画に盛り込まれている。計画作成担当者が原案を作成し、全職員で意見交換を行い、医師や訪問看護師、母体老健のOT等の意見も頂いている。施設長からアドバイスを頂いた“嚥下のための首のマッサージ”や、立ち上がりや歩行訓練等も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を個別を記録し職員間で情報を共有しながら見直しを行っている。特に状態の変化が著しい場合などはケアマネと協議し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況はその時々に変化しており柔軟に対応できるよう情報の共有化に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の心身の状況に応じて地域資源を活用し生きる力となるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の診療所がかかりつけ医となっており、状態の変化なども往診や定期受診時に報告し連携を密にしている。	診察や定期受診時には、ホームでの状況を的確に伝えるようにしており、医療連携を図っている。必要時には、往診にも来て下さっている。定期受診はケアマネや職員が同行し、受診結果はケアマネや主任が面会時に伝え、急を要する場合は電話連絡を行う等、ご家族との受診内容の共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師が常勤として勤務しており情報や気づきの共有化を図っている。また訪問看護事業所とも連携をとっており適切な看護が受けられるような体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の生活歴・病歴などの情報提供を行い、退院後の受け入れ又は事業所との連携を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時申込みまたは入居契約時に十分説明を行い、法人母体やかかりつけ医、協力病院と連携して家族へのフォローも支援している。	両ユニット合わせて看護師が2人勤務している。かかりつけ医と訪問看護師にも協力頂き、24時間体制で連携を図り、22年3月には、ホームで初めての看取りの支援が行われた。ご家族からも「最期は、できればここで」と話される方もおられ、ホームとして、どこまで支援ができるのかを関係者と話し合い、ご理解とご同意を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生については、マニュアルを作成し、応急対応や初期対応の訓練を定期的に行い実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練(避難・誘導・消火)を実施し、災害については風水害を想定しての避難訓練を実施している。	22年11月と23年3月、ご利用者と消防署、中村防災の方と夜間想定避難訓練が行われた。火災通報装置は、近隣の住民に応援要請できるシステムを導入している。防空頭巾、水、食料(カップ麺・カンパン)など準備されており、母体施設や三井楽ふるさと館からの応援受給も可能となっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としてプライバシーの確保には注意している。特に、居室においては、本人のプライバシーが存在するのでむやみに乱すことのないよう注意している。	思いやりのある職員が多く、ご利用者から「ここに来てよかった」と言って頂ける方も多い。言葉遣いや個人情報保護には特に注意をしており、法人全体で接遇研修等に力を入れている。職員はご利用者への気配り、目配りに心がけ、“人生の先輩である”という思いを持って、日々のケアを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも利用者本人による自己決定を原則とし、決定に戸惑い等が見られる場合には、本人の心を傷つけないよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに自分のペースというものが、職員側の都合を優先することなく、本人のペースを維持するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくつになっても「身だしなみは出来る限り自分で」という方針で支援している。そのことが生活のリズムを整え自分らしさを作ると考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好む料理を主体とし、一緒になって準備や食事・後片付けを支援している。	料理の得意な職員が多く、献立には郷土食や旬の食材を採り入れ、好物の“刺身”も登場している。天気の良い日には、外へテーブルを出して食事をすることもあり、誕生会にはご家族にも参加頂いている。バイキング形式を取り入れたり、テーブルに花を飾り、楽しい食事になるような工夫が行われている。	職員も一緒に食事をしているユニットもあるが、1つのユニットでは、食事介助が増え、一緒に食事をするのが困難になった。介助時も会話をするなど、楽しい食事になるための取り組みを続けているが、今後も“一緒に食べる”時間を作れる方法を検討予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を老健の栄養士に相談しながら栄養バランスを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、夜は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し本人の排泄パターンを把握して自立に向けた支援を行っている。	座位バランスの悪い方でも、職員の努力によりトイレでの排泄支援が行われ、約半数の方が布パンツを使用されている。ご利用者の排泄時間を考慮した誘導を行い、紙パンツから布パンツへ移行されるなどの効果も見られている。ドアにはカーテンもしており、羞恥心への配慮も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の使用に取組み、散歩や外出等により自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間に出来る限り入浴が出来るように支援している。	整髪時には五島の“ツバキ油”を愛用されている方もおられ、髪の毛が増えてきている方も多し。お風呂好きな方が多く、湯船での職員との会話を楽しんでいる。入浴を嫌がられる時には、理由を把握し、無理強いないようにしており、足浴や清拭を行う等、清潔面への配慮も行っている。	ご利用者の重度化に伴い、シャワーチェアに座っての洗身介助時にも、職員の一層の配慮が続いている。様々な介助方法の検討も行われているが、ご本人と職員が、より安楽で、転倒予防も踏まえた洗身方法(姿勢等)の検討を続けていく予定にしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズムに合わせ安心して眠れるよう配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに基づいて対応し、かかりつけ医と薬局との連携を図りながら薬の理解と状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で出来ること・興味のあることをアドバイスしたり一緒にやることで本人の力を引き出しながら継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は利用者の気分転換にもなることから、出来る限り本人の要望にも応えている。また、家族の協力を得ながら支援している。	身体状況や天候に合わせながら、お墓参り、ご自宅、買い物、魚津ヶ崎公園(岐宿)等へのドライブ等の外出支援も続けられている。五島の海へのドライブも行われ、夕陽を眺めながらの会話を増やされており、外出時の洋服もご自分で楽しそうに選ばれている。ホームの庭を利用して、外で食事を行ったり、リハビリを兼ねたお散歩の支援も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はその能力に応じて管理している。例え少しでもよいから自分でお金を持ちたいという気持ちを大切に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話したり手紙を出すなどの維持に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	三井楽の地は地形から夏は涼しく、冬が寒い環境であるため、夏は窓を開閉し温度・涼しさを調整している。自然の風による温度調節を行っている。	日々の掃除が行き届き、清潔感あるホームとなっている。適宜、空気の入替えが行われ、海風も心地良く、カーテンや冷暖房の調節により、温度調整が行われている。リラックスできる音楽等も流しており、来訪者の方からも「常に掃除が行き届いていますね」と言っている。台所の空間は限られているが、出入り時等、ご利用者同士の思いやりも見られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は本人の希望するレイアウトを基本とし馴染みの物や使い慣れた物によって自分らしさの生活ができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の希望するレイアウトを基本とし、馴染みのものや使い慣れた物によって自分らしさの生活が出来るように支援している。	お部屋が認識しやすいように折り紙の鶴や誕生日の写真を入口に飾っている。入居が長いご利用者もおられ、思い思いのお部屋作りがされている。ご家族の写真やお位牌、使い慣れた食器類、筆筒、テレビ、洋服かけ等を持ち込まれ、家具等のレイアウトも、ご本人がされている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂、リビング室、洗面所、浴室、トイレは利用者がそれぞれ利用しやすい設計となっており、好きな時間に自分のペースに合わせて利用できるように支援している。		

事業所名：グループホーム三井楽

作成日：平成 23 年 12 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	利用者とのふれあいの時間は多く持っているが、どこまで満足していただいているのか不安である。遠慮している部分や心情をくみとり、ケアとふれあいの時間を大切にしたい。	利用者と職員とのふれあう時間を増やす	くもん学習療法、外出や地域とのふれあいを通して利用者個別にふれあう時間を増やしていく。	12 ヶ月
2	2		利用者との会話を大切にする	・1日の生活のリズムを大切にしながら会話する。 ・会話の中で利用者の表情や心をくみとる。 ・会話を通して観察する。	12 ヶ月
3	3	身体の機能低下や気力低下が見られる	認知症の理解を重ねケアに活かす	生活の中で利用者のできることを維持し伸ばすことで気持ちの理解や機能を維持する。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月